

高校倫理からの哲学(全4巻+別巻)



平易な言葉で「人間とはなにか」を考える

高校生・10代から取りくめる、とても読みやすい哲学入門シリーズです。身近な問題や話題を出発点に、高校の倫理で出てくるくらいの内容を織り込みながら、読者とともに考えてゆくという、親しみやすい記述です。どこからでも気軽に読めるよう、構成や執筆上の工夫をしています。いま改めて「考える」ことの大切さを実感している社会人だけではなく、これから考えることを学び未来の社会を作る若い世代に手にとって欲しい。シリーズタイトルには、その思いも込められています。

■ シリーズ(本編4巻)の特長

1 ▶大テーマを軸に巻構成

「人間とは何か」が、全体を統一する問いです。哲学の基本中の基本の問いであって、かつ現在いっそう重みを増しているこの問いに、「生きるとは」「知るとは」「正義とは」「自由とは」という4つの角度からせまります。

2 ▶平易な言葉で思考を触発する

身近な題材を使った「問いのはじまり」で問題を提示し、各節ごとに論点をまとめながら進むなど、読者の思考に寄りそうように平易に記述して、読者の考察を促すよう工夫しました。入門本にありがちな、断片的な知識の詰め込みや専門用語の羅列はありません。

3 ▶飽きさせない立体的な構成

各巻は3講からなり、それぞれの講は「本文」とそれに関する「対話」、さらに関連するいくつかの「コラム」からなります。「本文」で問題に気づき、「対話」で考えを深め、「コラム」や少し長い「課題探究」で少し詳しく学びます。3講どこからでも読み始められます。

4 ▶ポイントの明示と課題による自己検討

キーワードの提示や小見出しの活用で、文章の筋やポイントを明示しました。また本文末の課題を考えることで、本文が取り上げた問題についての自分なりの意見をつくる作業ができます。コラムのレイアウトも読みやすく工夫しました。

5 ▶教育現場での使用を考慮

高校・大学教育でも使用できるよう高校倫理の全分野をカバーしています(付録:高校倫理学習課程対応表)。国語科等での読解教材としても使えます。各巻の作成過程では、被災地を含めた各地の高等学校の先生方や生徒さんにモニターをお願いし、頂いたご意見を参考にしました。

■ 別巻について

シリーズの編集途中で起こった東日本大震災と東京電力福島第1原子力発電所事故に対して、編者・執筆者・岩波書店ができることは何かを議論した結果、震災と自然災害について、さまざまな視点を設定して考察する別巻を編むことにしました。実際の体験なども踏まえ、防災・減災教育や科学技術論も視野に入れつつ、全体として倫理・哲学の問いへと繋ぐものとしています。

■各巻の概要

第1巻 生きるとは

人間だけが生きているわけではありません。しかし人間的な生き方というものがあるとすると、それは何だろう。この巻では私たちが生きていることそのものの理解を深めてみます。

第1講：人と人をつなぐものはなにか——身体と愛

第2講：「心」は深められるか——私の心と私の死

第3講：生命の尊厳とはなんだろうか

第2巻 知るとは

「何だろう」と問うことは、私たちが生きることと切り離せない大きな意味をもっています。この巻ではものを知る、私を知るとは何かについて考えます。

第1講：〈考える〉と〈信じる〉はどこがちがうのか——哲学の問い

第2講：真や偽とはどういうことか——知と真理

第3講：私のことを知るのは私か——自己と他者

第3巻 正義とは

正しく生きるとはどんなことだろう。正しさは人によりけりなのだろうか。しばしば起こるこうした疑問をもとに、倫理の基本となる「正義」について改めて考えてみます。

第1講：すべての人にあてはまる倫理はあるのか——倫理とその普遍性

第2講：隣人とどうつき合うのか——異なる正義との出会い

第3講：〈正義〉はひとつか——勝者の正義・敗者の正義

第4巻 自由とは

「自由」であることは当たり前なのだろうか。私たちは運命や自然に操られているだけではないのか、自由に行為するとはどういうことか。改めてこの難しい問いに挑戦します。

第1講：どうして自由はだいじなのか——社会と自由の関係

第2講：人は運命に逆らえるか——運命と自由

第3講：私たちは機械とはちがうのか——自然と自由

別巻 災害に向きあう

災害についてどう考えたらいいのだろう。東日本大震災・阪神大震災などの実際の経験と、古今東西の思想を織り合わせながら、自分なりに考えていく手引きです。本文とコラムから成ります。

(目次より)

災害を日本人はいかに受け止めてきたか：関東大震災の場合

災害の場でどんな倫理的問いが出されるのか：「津波てんでんこ」を手がかりとして

原子力とどのように向きあえばよいだろうか など

■編者

直江清隆(なおえ・きよたか)▶1960年生まれ。東北大学大学院文学研究科准教授。著書：『岩波哲学講座9 科学／技術の哲学』(共著、2008)など。日本哲学会哲学教育WG幹事。

越智 貢(おち・みつぐ)▶1951年生まれ。広島大学大学院文学研究科教授。著書：『岩波応用倫理学講義7 教育』(共編著、2005)など。第一学習社『倫理』執筆代表者。

■判型・体裁・頁数・定価

四六判／並製カバー 第1巻～第4巻 208頁・1500円程度 別巻 280頁・1700円程度

■刊行スケジュール

第1巻・別巻 2012年7月4日に同時発売／以下毎月1冊刊行

別巻 災害に向きあう 目次

I, 天災と思想・宗教

- 1 災害を日本人はいかに受け止めてきたか：関東大震災の場合
コラム1：日本における神の両義性
コラム2：中世仏教における災害と同朋論
2 災害は人間への警鐘か：古代中国の天変地異と予言
コラム3：インド思想における筏と洪水伝説
3 神はなぜ悪を許すのか：リスボン地震と弁神論・啓蒙思想
コラム4：カントと地震
4 人知を超えるものはいかにして向き合うか—津波、原発、哲学
- 錫木政彦
出岡 宏
福島栄寿
串田久春
久間泰賢
福島清紀
山根雄一郎
高橋雅人

II, 震災における倫理

- 1 災害の場でどんな倫理的問いが出されるだろうか：震災体験からの問い
コラム5：他者の苦しみにどう向きあったらよいのだろうか：
阪神淡路大震災の経験から
2 被災によってどのようなこころの問題が生じるだろうか
コラム6：被災者へのこころの支援・ケアについて
3 支援されること・支援することをめぐって：負い目と相互支援
コラム7：ボランティア活動の自発性
- 篠澤和久
一色 哲
大川一郎
藤生英行
小野原雅夫
井上厚史

III, 震災・原発災害からの倫理の見なおし

- 1 震災は人びとの倫理意識を変化させるだろうか
コラム8：震災とデマ、ナショナリズム
コラム9：震災体験における情報共有
コラム10 災害における安全と安心
2 原子力とどのように向きあえばよいだろうか
探求：確率・リスクと合理性—原発事故をめぐって
コラム11：危険地域からの退去命令は正当か
3 震災・原発災害からの立ち直りにむけて：
安心して暮らせる社会をつくるうえでの課題は何だろうか
- 越智 貢
一色 哲
小林 睦
岡野八代
直江清隆
重田園江
児玉 聡
直江清隆/越智貢

高校生から取りくめる哲学・倫理の入門書です

高校倫理からの哲学 全4巻・別巻1

[編集] 直江清隆・越智 貢
四六判・並製／平均224頁／定価未定

高校倫理の内容を踏まえ、西洋思想・東洋思想・日本思想などに充分目配りした内容とします。「生きる」「知る」「正義」「自由」といった大テーマで4巻を構成し、読者の思考に寄り添う平易な書き方を目指します。各巻は、本文によって問題に気づき、続く対話形式の文章で考えを深め、コラムで高校倫理の教材について少し詳しい知識を学ぶようデザインします。別巻は、東日本大震災を受け止め、震災と自然災害について倫理の分野からさまざまな視点を設定して考察するものとします。実際の体験などを踏まえ、防災・減災教育や科学技術論も視野に入れつつ、全体として倫理・哲学の問いへと繋ぐものとします。断片的な知識を与えるのではなく、自分で考える力を養うための入門書です。

目次概要

第1巻

生きるとは

- 人と人をつなぐものはなにか：
身体と愛
 - 心の「深み」とはなんだろうか：
私の心と私の死
 - 患者の命を救えればそれでいいのか：
生命と尊厳
- ほか

第2巻

知るとは

- 〈考える〉と〈信じる〉はどこがちがうのか：
哲学の問い
 - 真や偽とはどういうことか：
知識と真理
 - 私のことを知っているのは私か：
自己と他者
- ほか

第3巻

正義とは

- すべての人にあてはまる倫理はあるのか：
倫理とその普遍性
 - 隣国人とどうつき合うのか：
異なるものとの出会い
 - 〈正義〉はひとつか：
勝者の正義・敗者の正義
- ほか

第4巻

自由とは

- 人は運命に逆らえるか：
運命と自由
 - 私たちは機械とはちがうのか：
自然と自由
 - どうして自由はだいじなのか：
社会と自由の関係
- ほか

別巻

災害に向きあう

- 1 天災と思想・宗教
災害を日本人はいかに受け止めてきたか：
関東大震災の場合
災害は人間への警鐘か：
古代中国の天変地異と予言
 - 2 震災における倫理
災害の場でどんな倫理的問いが出されるだろうか：
震災体験からの問い
被災によってどのような心の問題が生じるだろうか
 - 3 震災・原発災害からの倫理の見なおし
震災は人びとの倫理意識を変化させるだろうか
原子力とどのように向きあえばよいだろうか
安心して暮らせる社会をつくるうえでの課題は何だろうか
- ほか

直江清隆 (なおえ・きよたか)：東北大学大学院文学研究科准教授。『岩波講座 哲学9 科学／技術の哲学』(共著、2008)など。日本哲学会哲学教育ワーキンググループ幹事。

越智 貢 (おち・みつぐ)：広島大学大学院文学研究科教授。編著『岩波 応用倫理学講義6 教育』(共著、2005)など。第一学習社『倫理』執筆代表者。

刊行日 7月刊行開始予定

岩波書店